

# 連携医院のご紹介

希望・幸福に向かう健康づくりを心をこめてお手伝いすることを理念としている「みなみ内科ライフケアクリニック」の田村朋子院長にお話を伺いました。



田村院長

## みなみ内科 ライフケアクリニック

〒732-0816 広島市南区比治山本町  
16-35 広島産業文化センター12F  
電話/082-254-7433  
院長/田村 朋子  
診療科目/内科・糖尿病内科



広島産業文化センターの12階にあります。

よつばのクローバーのそれぞれの葉に、希望 (Hope)、幸福 (Happiness) に向かう健康づくり (Healthcare) を心を込めて (Heartful) お手伝いしたい、という思いを込めています。

### ○いつ開業されましたか。

当院は、平成2年の産業会館の完成にあわせて、「内科佐藤クリニック」として会館内に開院し、糖尿病を含む内科疾患を中心に佐藤敏枝先生が診療されておられました。

その診療をお手伝いさせていただいていた御縁もあり、「みなみ内科ライフケアクリニック」として平成27年に継承・新規開院させていただきました。

継承にあたり、ライフ（人生・生命）に関わる健康管理・予防にも取り組みたいと思い、名称に「ライフケア」という言葉を含め、中学高校時代を過ごしたこの地域に恩返し気持も込め、日々の診療にあたっています。

### ○開業されてから今までの事を教えてください。

当院の患者さんは、地域にお住まいの方に加え、複合ビルに企業オフィスとともに入居している関係上、企業関連の方も来られます。

また、近隣にマンションが次々と建設されており、若年者も多く来られます。このため、幅広い疾患に対応しなければいけません。勤務医時代の救急・当直時に先輩方に教わった知識・経験が役立っています。

### ○毎日の診療で大切にされている事は何かですか？

糖尿病専門医としての専門性を生かし、糖尿病・高血圧・脂質異常症・甲状腺疾患治療を中心に、内科一般に広く対応して

います。検査数値の改善だけではなく、充実した人生が送れるよう健康管理のサポートに重きを置いています。

このため、栄養士による栄養指導も交えながら、患者さん一人一人に合う予防管理・治療ができるよう、寄り添い、ともに考えるようにしています。

また、患者さんがゆったりと受診できるよう、南区在住の画家の方から提供頂いた絵画を月替わりで展示したり、待合ラウンジにも選書サービスで有名な「いわた書店」が選んだ本を「読むクスリ」として設置しています。

なお、昨今、若者の栄養バランス不良による糖尿病・貧血等や、子育て中の母親が孤立し悩んでいる姿を見聞きするため、将来的に食育、ライフステージに対応した健康対策を提供していけたらと考えています。



パノラマビューの明るい待合ラウンジ



月替わりの選書 診察室の絵画

### 【取材後記】

12階建ビルの最上階ということもあり市内の眺望がガラス越しに広がる開放的な空間と細やかな心配りにより、患者さんもくつろぎながら受診できるクリニックと感じました。

# もみじ



県立広島病院 〒734-8530 広島市南区宇品神田1丁目5番54号

※県立広島病院の様々な情報をホームページへ掲載しています。  
県立広島病院で検索 (URL: <http://www.hph.pref.hiroshima.jp/>)



理念：県民の皆様に愛され信頼される病院をめざします



奥田元宗「溪潤春耀」



## 院長就任のご挨拶 平川 勝洋

4月1日付けで病院長を拝命しました。私は昭和52年(1977年)に広島大学医学部を卒業し、同大学の耳鼻咽喉科学教室に入局しました。当院では研修医時代に1か月麻酔科の研修でお世話になりました。2年間JA尾道総合病院や帝京大学医学部へ出向した後は、そのほとんどの期間を大学でお世話になりました。昨年3月に大学を退職し、病院事業局を経て当院に籍をいただくことになりました。

安全を担保しながら、患者さんに最適な医療を提供することが、すべての病院の使命であると思います。当院においても自治体病院として課せられているミッションを再確認し、基本方針を堅持しながらも、健全かつ安定した経営基盤を確立することは、我々が理想と考える医療を実践するためにも必須であると思います。

政府の提唱する「働き方改革」により、さらに効率的な働き方が求められています。業務の内容や作業の積極的な見直しをしたいと思います。優れた医療人の育成も当院に課せられた大きな使命です。教育には愛情と忍耐が必要ですし、時間がかかります。前述した効率性の追求とは相反しますが、人材育成にpriorityを置きたいと思います。

全国自治体病院協議会の1番目の行動指針は、「地域医療の確保」です。県民、地域の医療関係者とともに、また当院の構成員の皆さんの力を借りながら、より良い病院となるよう努めてまいります。皆様のご協力、ご支援をよろしくお願い申し上げます。



## 院長退任のご挨拶 木矢 克造

今年3月31日をもって県立広島病院を退任致しました。第22代院長として4年間の任務でしたが、県病院をご利用頂きました皆様方、各病院の先生や医療スタッフの方々に対しまして感謝申し上げます。

当院のミッションには高度医療の提供と医療人材の育成があり、職員一同で切磋琢磨して参りました。高度医療のうち救急部門では断らないことをモットーとし、空路のドクター・ヘリに対し陸路のドクター・カーを導入しました。また、脳心臓血管センター・呼吸器センター・消化器センターを立ち上げ、内科系と外科系協働による診療体制を作りました。現在は、がんゲノム医療の構築に取り組み中です。人材育成では、卒後の臨床研修医として毎年18～20名を引き受け、県内の医師養成を行っています。医療スタッフには医の心を涵養してきました。働き方改革に対しては、TQMサークル活動や5Sといった手法を用い業務改善に取り組んでいるところです。

今後は平川勝洋院長に引き継ぎますが、県民の皆様に愛され信頼される病院として、さらなる深化が期待されます。引き続き県立広島病院を宜しくお願い申し上げます。

## 県立広島病院からのお知らせ

### 4月のがんサロン

開催日 平成31年 4月17日(水)  
時間 14:00~15:30  
場所 新棟2階 総合研修室  
テーマ 『もっと知りたい!!泌尿器のがん』  
講師 泌尿器科/梶原主任部長、大原部長  
対象 悪性腫瘍(がん)の患者さん及びそのご家族  
当院での受診歴は問いません  
問合せ先 がん相談支援センター  
☎082-256-3561(担当/橋本)



### 地域健康フォーラムを開催いたしました

昨年台風の為、中止となりました第13回地域健康フォーラムを3月2日(土)に『めまいは、何科に行けばいいの?』をテーマに開催いたしました。お忙しい中ご来場いただきました皆様、誠にありがとうございました。

## 2019 GW中の外来診療

4月		5月					
29 月	30 火	1 水	2 木	3 金	4 土	5 日	6 月
休診	開院	休診	開院	休診	休診	休診	休診

4月  
30  
火曜日

5月  
2  
木曜日



通常通り開院いたします。

当院医師の講義が  
身近に聞ける！

# 県病院の地域巡回講演会



巡回講演会の様子

当院では、地域に貢献する取組として、住民の皆様に関心を持っていただき、検診の重要性や病気に対する最新の知識を理解して頂くため、当院のスタッフを講師として派遣し、地域巡回講演会を開催しています。

がん検診、生活習慣病検診などにより、病気が早期に発見されると治癒率も向上します。検診でがんの疑いを指摘されても、「自分はがんではないか…」と怖く感じ、精密検査に行けない方もいますが、こういった講演会でがんや病気の理解を深めることができれば、不必要に恐怖や不安を強く感じることもなく、前向きな気持ちで精密検査を受けて頂くことができると思います。

この講演会をきっかけに、一人でも多くの住民の方々の健康増進に寄与できるよう、努力していきたいと思ひます。

この講演会は、行政・医師や医療介護関係者・自治会・民間企業等の依頼により各地域へ出向しているものです。参加者からは病院のスタッフと身近に意見交換が出来ると高い評価を頂いています。

多くの皆様の御参加をお待ちしております。

## H30年度開催内容の例

テーマ	派遣医師	会場
知って損はないがんの話	消化器外科/板本医師	東広島市
大腸がんのこと	消化器外科/池田医師	広島市佐伯保健センター
胃がんのこと	消化器外科/堀田医師	広島市南保健センター
乳がんのこと	乳腺外科/松浦医師	呉市保健所
口腔がんについて	歯科・口腔外科/桐山医師	国保連合会
認知症の原因・症状・治療について	脳神経内科/時信医師	県立広島大学
がんと栄養について	栄養管理科/田中管理栄養士	国保連合会 他



## 脳心臓血管カンファレンス

脳心臓血管センター長/上田 浩徳

カンファレンスの内容をお伝えします！

### 無痛性大動脈解離と脳虚血症状

【脳神経外科・脳血管内治療科/前田 雄洋】

大動脈解離とは大動脈の壁が裂け（解離）、激しい胸背部痛とともに、生命に危険が及ぶ重大な疾患です。その中には、胸背部痛などの典型的な症状がなく（無痛性大動脈解離）、脳虚血症状で発症する症例があります。すなわち、大動脈の血管壁が解離し、大動脈から分岐する頭頸部の血管への血流が遮断されることで、脳梗塞が引き起こされます。大動脈解離による脳虚血症状は初期から広範な脳虚血巣を反映した意識障害や片麻痺を呈する特徴があります。

胸部症状を訴えない急性期脳梗塞症例すべてに大動脈解離が存在するわけではありませんが、  
①上腕の血圧の左右差 ②頸動脈の拍動の左右差 ③血液検査で D-ダイマーや FDP の上昇 ④頸動脈エコー(intimal flap)、胸部 XP（縦郭拡大）、心エコー（心嚢液貯留）等異常を認める場合は急性期脳梗塞の原因として無痛性大動脈解離を疑い、造影 CT 検査による大動脈の評価が必要と考えます。



# 外科医の独り言 no.90

— #7119 —

夜中トイレに行ったとき転倒し、腰を強打しました。『何とか起き上がったが、腰を押さえると痛い腫れてはなさそう。しびれもなく歩けるには歩けるが、やっぱり痛いなあ』という状態でさあ、あなたは どうしますか？すぐに救急車を呼ぶ？そんなに重症ではなさそうだし、じっとしていれば痛みがないので、明日の朝まで横になって様子を見る？本人は大したことはないと思っけていても、何かあったらいけないのでと家族が救急車を呼ぶかもしれませんね。

どうすればよいか判断に迷ったら『#7119』に電話してください。これは今年 1 月 28 日に広島市が開設した救急相談センターの電話番号です。それ以前も 246-2000 で、対応可能な救急医療機関の案内をしていました。しかし、今回の『#7119』は、病院を紹介するだけでなく、急な病気やけがをした際に救急車を呼ぶべきか、病院に行くべきか、それとも様子を見ていいのかなど判断に迷った方からの電話相談に看護師が対応してくれます。もちろん状況に応じた医療機関を紹介してくれます。広島市だけでなく呉市、大竹市、東広島市など近隣の 15 市町をカバーしています。看護師で判断が難しい場合には、専任医師に助言を求める体制を整えています。

平成 30 年の 1 年間で、広島市消防局管内での救急車の出動は 6 万件を超えたそうです。しかも、その約半数は、結果的に軽症だったそうです。広島市消防局にある救急車は 45 台です。安易な救急車の要請は、本当に重症で一刻も早く救急搬送が必要な患者さんのところに救急車が到着するのが遅くなってしまい、救われる命が救われない恐れがあります。かといって、軽症と思ってタクシーや自家用車で来院された患者さんが、意外に重症で「なぜ救急車を呼ばなかったのか」と医者から言われた患者さんがおられることも事実です。結局、医療従事者ではない一般人にとって、軽症か重症かは、病院に行っ

て診てもらわないとわかりません。いや、一般の人だけでなく、私たち医療従事者も身内のことになると冷静な判断ができない場合があります。どうしようかと迷ったら是非、『#7119』に掛けて助言をもらってください。

私が外科医になって 5 年目の話です。だからもう、30 年前の話です。この話は何年前にこのコラムで書いたかもしれません。当時、長男が 2 歳前で、休日に遊んで帰ってきて様子がおかしく、熱を測ると 40℃ 近くありました。当然妻は慌てましたが、外科医の私は、「まずは身体を冷やそう」と冷静に助言し、冷たいタオルで冷やし始めると、なんと息子がケイレンし始めたのです。妻は、初めての子供ということもあって気が動転し、救急車を呼ぶと言い出しました。外科医の私は、熱性けいれんであることは分かっていたので、あくまでも冷静にまずは冷やすこと、脱水がひどければ近くの病院に行って点滴をしてもらうことを提案しました。しかし、妻は医療の素人、ましてや初めての子供が目前でケイレンを起しているのだから冷静でいられるわけがなく、外科医の私の言うことを聞いてくれません。結局、冷静さを失った妻と冷静な外科医は、自家用車で息子を連れて病院に行くことになりました。この頃には、息子のケイレンは治まっていたが、汗びっしょりかいてグッタリ、脱水に陥っていました。病院に着いて冷静さを取り戻した妻に、「俺が付いているし、みっともないから慌てるな」と言って自分の足元を見ると、片方はサンダル、もう片方に靴を履いている自分に気づき、医者も身内のことになると大したことはないなと自省しました。今度からは迷ったら『#7119』に電話します。

☎ #7119



副院長(消化器センター長) 板本 敏行

## ボランティア活動表彰式

平成 31 年 2 月 21 日(木)に「緩和ケアボランティア活動表彰式」、3 月 15 日(金)に「外来ボランティアミーティング」を行いました。

当院においてボランティアとしての活動を 5 年以上された方へ、病院長から表彰状を授与いたしました。緩和ケア病棟では絵手紙教室や、コンサートの開催など、不安や心配をかかえている患者さんやご家族にとって、心休まるひとときを提供していただいています。小児病棟では子供達の遊び相手や行事のお手伝い、外来では通院患者さんの受診サポートをしていただいています。

ボランティアの皆様いつも本当にありがとうございます。



小児病棟ボランティアさん



緩和ケアボランティアさん